

議案 「ラグビーワールドカップ2019」に関する補正予算

横浜市は、日本で初めて開かれる「ラグビーワールドカップ2019」の開催地として決定しました。本大会の総事業費462億円(主催者試算)の内、36億円が12の開催都市の分担金となりますが、その為の補正予算議案が、本定例会に提出されました。

様々な視点からの質問や議論がありましたが、本件議案は委員会・本会議ともに、賛成多数で可決しております。



▲ラグビーW杯の会場の1つとなる日産スタジアム

開催都市分担金	200百万円	大会組織委員会に支払う分担金400百万円を神奈川県・横浜市で半分づつ負担。3年分割払い。
2015イングランドW杯パビリオン出店費	9.4百万円	2019大会のプロモーションブース出展費用(組織委員会からの要請あり)

- 開催時期 2019年9月～10月(約7週間)
- 開催都市 12都市(札幌、釜石市、熊谷市、東京(新国立競技場)、横浜、静岡、豊田市、東大阪市(花園)、神戸市、福岡市、熊本市、大分市)
- 参加チーム 20チーム(予選40試合・決勝トーナメント8試合)

質問・意見の一部(抜粋)

Q 分担金は返金されるのか?

A 日韓共催のサッカーW杯の際の分担金340百万円は、各都市に満額返金された。返金の有無は大会の成否による。成功に導けるよう努力する。(＋一定程度の経済効果は期待している)

Q 集客に繋がる決勝トーナメントの試合が誘致できるのか?

A 開幕戦、決勝戦は恐らく新国立競技場で。決勝トーナメントは6万人以上のスタジアムが条件となるが、12都市でその条件を無たす都市は少ない。決勝トーナメントの何試合かは、横浜開催の見込み。

結果報告 横浜マラソン2015及び、2015世界トライアスロン横浜大会

本年3月15日開催の「横浜マラソン2015」及び、5月16日、17日開催の「2015世界トライアスロンシリーズ横浜大会」の大会結果報告がありました。

	横浜マラソン	世界トライアスロン
出場者	23,423人	1,715人(2日間計)
沿道応援者数	62万人	27万人
ボランティア(内、スポーツ推進員)	6,522人(1,800人)	1,070人(385人)

横浜マラソンは、横浜で第1回目となるフルマラソンの大会です。「他都市より出走料が高い」という意見もありましたが、応募は高倍率(地元優先枠3,000人は10.3倍、一般枠20,500人は4.0倍)となりました。トイレやコース設定などの改善課題は、来年の開催までに修正をして頂き、今後も継続開催して頂く事を期待しています。

世界トライアスロン横浜大会は、今年で6回目の開催となり、世界大会の開催地として定着しつつあります。NHK、BS1で約5時間生中継され、国際映像は全世界150の国や地域で放送されました。

敢えて、課題は?(2点)

1 横浜マラソンの大会費用700百万円の内、100百万円は市の負担です。京都マラソン(1万5千人参加)では41億円、神戸マラソン(2万人参加)では59億円の経済効果があったと試算されていますが、横浜市では経済効果の試算がされていません。開催意義の説明の為にも効果測定が必要です。

2 又、2つの大会とも、多くのボランティアの皆様運営を支えています。スポーツ推進員の皆様をはじめ、「ご協力を頂いている皆様への感謝の気持ちを示す、具体的な方法を考えるべきである」、という意見が委員会です出されています。



▲横浜マラソンスタート地点にて



▲湾岸を走る横浜マラソンのコース